

辺野古土砂搬出反対全国協ニュース

発行/辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 <No.2> 2015年11月

全国からの署名を首相宛に提出 防衛省・環境省・経産省に要請と公開質問も

10月15日(木)、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会は、全国から集まった署名52,429筆を、内閣府に提出しました。当日参加したのは、奄美・五島・北九州・小豆島などの搬出予定地をはじめとする10団体23名。前日から衆参の議員室を回っての要請行動など、2日間にわたって精力的に行動しました。(2・3ページにも関連ニュース)



きた。安倍政権は辺野古以
る大きな種をまくことがで

土砂採取に反対する全国からの署名を内閣府へ提出する大津幸夫共同代表(右から2人目)15日東京・内閣府

外に道はないというが、強行すれば火はさらに大きくなり政権を追い込むだろう」と述べ、計画阻止に意欲を示した。

これに先立ち、協議会は防衛、環境、経済産業の各省担当者との政府交渉を

実施。市民らは海の生態系を守るために辺野古沿岸を早期に海洋保護区として選定すべきだと訴えたが、環境省は明確な返答はしなかったという。また、メンバーは環境影響評価(アセスメント)後に新種が発見された場合、アセスのやり直しを規定していない現行法を問題視。環境省へ法改正を含め再検討を求めた。

阿部悦子共同代表は、「私

たちは古里の環境を壊させない立場で運動してきた。沖縄の置かれた不条理と我々の不条理を重ね合わせ、計画の撤回に向け運動を続けたい」と力を込めた。

1 総合 1版 201

土砂搬出反対5万2429人

反辺野古 全国協 首相宛て署名提出

【東京】名護市辺野古の新基地建設で、沿岸部の埋め立て用土砂採取地域の13万2429人の署名を安倍

晋三首相宛てに提出した。大津幸夫共同代表は、「辺野古反対運動を全国に広げ

(2面に関連)

2015.10.16 沖縄タイムス

東京新聞でも、詳しく報道されました

特報 11版 2015年(平成27年)10月18日(日曜日) 東京新聞

奄美「無秩序採石野放し」 五島「何も知らされない」

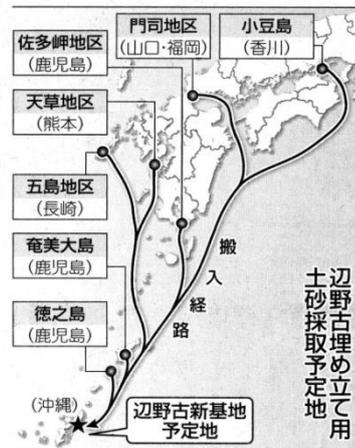
複雑な思いを共有する各地の採石予定地の環境団体は今年五月末「辺野古埋め立て土砂搬出反対全国連絡協議会」を結成した。七団体から始まった協議会は現在十三団体に増えている。それぞれで計画の中止を呼び掛け、反対署名も集めている。今月十五日には各地から上京したメンバーらが、五万二千四百筆を超える反対署名を安倍晋三首相宛てに提出。防衛省や環境省にも計画撤回を申し入れた。

全国連絡協議会の共同代表で「環瀬戸内海会議の阿部悦子さん(左)」「松山市」は「瀬戸内海の自然を守る活動をしてきたが、辺野古へ故郷の土を運べば被害者になってしまつて訴える。人目に触れにくかった各地の環境問題の実態も浮かび上がった。

島内の三力所が岩ずりの採取候補地とされる奄美大島(鹿児島県)では、採石場と集落が近接し、住民たちは土ぼこりや騒音に苦しん

全国13団体が反対協議会

できた。大雨のたびに大量の土砂も道路に流出している。協議会共同代表の一人で「自然と文化を守る奄美会議」の大津幸夫さん(左)は「奄美市」は「貴重な生きものと景観で世界自然遺産を目指しているのに、無秩序な採石が野放しになっている」と憤る。五〇年制定の採石法が、採石業の振興を目的とするだけで、環境保全の視点がないと批判。根本的な法改正を訴える。



長崎県の五島地区も百五十万立方メートルの調達が可能と目される採石候補地に挙げられている。今年六月に計画を知った「五島列島・自然と文化の会」の歌野敬代表(左)は「採取計画は小さな島がなくなってしまうくらいに規模。それが地域に知られていないことにくせんとした」と振り返る。五島地区では十年前に高レベル放射性廃棄物処分場の誘致計画も持ち上がった。経済優先のひずみが、過疎が進む離島に押しつけられて

いる現状を訴えた。一方、最大の岩ずり購入が見込まれる福岡・山口県にまたがる門司地区では採石業は重要な地場産業。門司の環境を考える会」の八久美子さん(左)は「北九州市」は「江戸時代から採石があり、暮らすのためなら仕方ないと理解している。でも、辺野古の海を埋める基地建設のために故郷の土が使われるのはまっぴらごめん」と話し、地元業者にも発注を受けないよう申し入れを重ねる。

内閣府の担当者(手前)に集めた署名を提出する辺野古埋め立て土砂搬出反対全国連絡協議会のメンバー15日、内閣府で



県外から持ち込み 沖縄県は規制条例

「FUKUSHIMA」 翁長知事が承認取り消しを表明した十三日、運動の先頭に立ってきた山城博治さんは、ゲート前で「したいひや(でかした)！」と絶叫した。悪性リンパ腫に侵されて、四月から闘病生活に。今月六日に復帰したばかり。一県民全体で団結し、知事の決断を支える。沖縄県民の新たな闘いが始まった。(国)

いるかの調査を義務付ける。条例は十一月一日に施行される。辺野古沖で新基地建設を進めたい政府にとって、県条例は翁長雄志知事による埋め立て承認取り消しに続く、大きなハードルとなる。全国連絡協議会も西日本の土砂を亜熱帯域の沖縄に運ぶことは、政府が進める生物多様性国家戦略に沿わない生態系のかく乱にあたると指摘している。阿部さんは、辺野古だけの問題ではないと強調する。「産業振興のために採石地はとも地形が変わるほど破壊される。不要となった跡地は産業廃棄物や高レベル放射性廃棄物などの処分場として狙われる。この不条理の責任を誰も負わない。いったん立ち止まると、地方をどうするのかを本気で考えるべきではないか」



衆院議員第二大会館での防衛省への要請交渉



署名持参で内閣府へ提出に向かう皆さん

当日は、防衛省と環境省には要請書を、経産省には公開質問状を提出しました

2015年10月15日

経済産業大臣 林 幹雄 殿

採石法に関する公開質問状

私たちは、西日本各地で辺野古新基地建設のための埋め立て用土砂として、既存採石場を運営する採石業者から購入・調達するとされる計画の中止を求めて活動する団体・個人が連携・協力するために、2015年5月31日、採取候補地の一つである奄美に集い設立した団体です。現在までに、鹿児島県、熊本県、長崎県、福岡県、山口県、香川県などの市民団体が参加しています。

この間、各地で採石に伴う山、川、海の環境汚染の実態調査を行うとともに、採取計画の撤回を求める署名活動(添付資料)を進め、9月末現在、約5万筆が寄せられ、このほど内閣総理大臣に提出する運びとなっています。

1950(昭和25)年に制定された「採石法」は、「災害を防止し、採石業の健全な発達を図る」(第1条)ことを目的としています。採石は、同法に基づき採石業の認可を受けた業者により行われていますが、1970年代に入り環境関連の諸法が成立する中においても、その運用は「十年一日のごとく」変わることないまま、60年を超えて続き、その間、何らの法のあり方に関する根本的な見直しもされないうままであります。そこで、私たちは、採石法の運用の現状や問題点につき、以下、公開の場での議論を求めるべく公開質問状を提出させていただきます。

- 1 1950(昭和25)年に法律が制定され、この間、根本的な見直しもされずに今日まで至っているように見えるが、そのような理解でよろしいのでしょうか。
- 2 法制定以降60余年、当時とは大きく工法も変わり、採石器具も重機化し、大量に採取可能となっています。そもそも採石とは、石垣用の岩石採取、墓石、石灯籠の材料として行なわれる「生業」であったし、大きく景観が失われることもありませんでした。しかし高度経済成長期以降、公有水面埋め立ての材料などとして大量に利用されるようになり、採石業も採取方法や重機の採用等、劇的に変化し、大量に採石することとなっていった中で、山や海など周辺環境へ及ぼす影響が拡大してきた経過をどう認識し、それにどう対処すべきとお考えですか。
- 3 法には、業者に対し環境保全を求める、あるいは環境保全のための規制条項が全くないように見えるが、現時点において、それで十分と考えているのでしょうか。
- 4 既存の採石場の多くが、自然公園法に基づく「国立公園」に隣接しているが、それらとの関係をどう把握しているか。把握しているとすれば、それをどう受け止め、自然環境や景観への配慮についてどのような指導を行なってきたのか。
- 5 奄美群島においては、採石場が住民の居住する集落に隣接し、道路は採石業の運搬車が行き交い、それによる粉じん被害など居住環境に影響を及ぼし、さらには、大雨による土砂災害、道路不通の事態を引き起こしている。このような集落隣接地の採石は、即時認可を取消すべきではないかと考えるが、いかがですか。
- 6 奄美群島などの採石場地先の海域には、採石に伴い発生する微細粒子が流入し、日常的に直近の海が濁る現象が発生している。また粒子が海底に堆積し、濁りに強い一部のサンゴの仲間を除き、ほとんど無生物に近い状態になり、海域の環境を大きく損なう事態が起きているとの現地の報告があるが、こうした実態を把握しているか。同様の現象は全国各地に存在するはずだが、それらの実態把握の総合的な全国調査を行なった経過はあるのか。
- 7 香川県小豆島の例に見られるように、採石業者が船による採石の積み出しをするため、栈橋や着岸用岸壁を設置したり、採石場現場から海への搬出のため国道や県道の下にトンネルを設置したり、行政側が便宜を図ったとしか思えない事例があります。また、採石業者は搬出時に海水で採石を洗浄し、細粒を洗い流すことを繰り返しています。こうした事実をどう把握しているのか。仮に知りえた場合、どう対処されるのか。
- 8 瀬戸内海は幕末以降、島々の緑が織りなす内海多島海が高く評価され、その展望・眺望が世界に比類のないものとして、昭和9(1934)年に国立公園に第1号指定されました。しかし、今日でも既に、瀬戸内海にあっては、高度経済成長期の沿岸各地の埋め立て材として採石され、様相・景観が大きく損なわれている島が、すでに各地に点在しています。そして、計画を終了した採石場跡地の緑化復元・再生はなされていないのが現状です。これらの原状をどう認識しているのか。

以上の点につき、文書での回答を求めるものです。

熊本県連絡協議会「御所浦採石場見学」と「採石会社への申し入れ行動」

2 事業者とも「申し入れ文」受け取る

熊本県連絡協議会・生駒研二

■海から見学

10月14日(月)朝、沖縄の翁長雄志知事の辺野古埋め立て承認取り消しの記者会見のニュースが流れる。「ヤッター！」と思ったが、この後、マスコミから「阿蘇の噴火でいけません」との連絡が相次ぐ。(残念、阿蘇の噴火には負けました)

12時50分、天草市倉岳町棚底港に参加予定者15人は全員集合。今日の取り組みを説明したあと、棚底港を船(岩下さんとお友達の船の2艘)で出航し、御所浦島の南端の採石場へ直行。北から(株)隆勢の現場は「白亜紀の壁」の下である。ショベルカーが稼働している様子が見える。次の山口海運の現場は、特に動きは見えないが、岩ズリがかなりストックされている。最南端の旧採石場は、この夏から化石採取体験の場になり、上陸可能になっている。

■岩ズリにも化石が

これまでの採石で岩肌がむき出しになり、近づくにつれて迫力がある。恐竜の歯が発見された現場でもある。天草ジオパークの顔ともいえる場所だ。化石採取体験場で化石を見つけてもらう。「島のどこの岩ズリにもいろんな化石が含ま

れている」と、地元の人がおっしゃっているように、次々と化石が見つかる。

■申し入れ…次に繋がると受け止め

14時40分、棚底港に帰り、各自の車で上天草市姫戸町の山口海運へ。山口海運では、社長から委任された顧問の方が「お手紙をいただいた板井弁護士だけ入ってください。他の人は外で待って」とのこと。15分ほどして二人出てこられる。(終了後の報告会で板井弁護士は「まだ正式には何もないので申し入れ文は受け取れない」とのことだったが、何とか受け取っていただいた。もし正式に売却依頼が来たら、すぐに連絡するとのことだったと話された)。

その後、上天草市松島町の(株)隆勢へ向かう。社長は留守。社員の方が「社長が申し入れ文は受け取っておくようにとのことでした」と。申し入れ文を板井弁護士より手渡していただく。その後、報告会を行い、板井弁護士より2社の対応を話していただいた。板井弁護士の事前のお願い文があり、申し入れ文を受け取っていただいたことは、一つの前進で、次に繋がったと受け止めた。

《若者グループ『KOGYAN』の集会報告》

11月7日、熊本でも「民主主義はドギャン?コギャン!」とアピールする大学生中心の若者グループ『KOGYAN』が、戦争法案反対と辺野古埋立反対の集会を開いた。沖縄出身のM君から依頼を受け私も参加した。組織のスローガンではなく、一人ひとりが自分たちの思いを自分たちの言葉で伝えてくれた。等身大の力まない彼らにさわやかさを感じた。

私は修学旅行やPTAの引率で沖縄に行ったときの話をした。最後に米軍に収奪された土地返還を、「しまぐるみ」の「無抵抗の抵抗」で米軍と闘った、沖縄県伊江島の阿波根昌鴻さんを私の闘いの師として紹介した。沖縄の闘いを自分の問題として考え行動していくことが出来たら、この国も変えることができるのではないかと、若い人の姿を見て、今、私は考えている。



全国協第2回総会で体制を決定

各採石地の状況について報告される全国連絡協議会の第2回総会＝3日、長崎県長崎市の県教育文化会館



辺野古土砂搬出反対
全国連絡協議会 第2回総会

辺野古土砂反対

署名5万筆 首相提出へ

長崎で総会 全国協、12団体に増

【長崎＝金良孝矢】名護市辺野古の新基地建設で、沖縄防衛局が埋め立て用土砂を採取する予定地の市民団体などをつくる「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会の第2回総会が3日、長崎県長崎市の県教育文化会館で開かれた。協議会は7団体から12団体に増え、新たに役員体制を確立した。3日現在で5万筆を超えた反対署名を15日に安倍晋三首相宛てに提出する予定だ。

総会には鹿児島県奄美大島や福岡県北九州市、熊本県天草市、長崎県五島列島、香川県などから9団体と一般人ら約20人が集まり、各採石地の状況や各地での取り組み、今後の活動などについて議論した。「一粒たりとも故郷の土を戦争に使わせない」をスローガンに、新たに共同代表に就任した環瀬戸内海会議の阿部悦子共同代表は「辺野古の埋め立ては絶対させない」と強調した。構成団体が街頭で署名運動や採石地の視察、業者へ土砂売却反対願い申し入れ、勉

強会や報告会を展開していることや、香川県と山口県で辺野古土砂搬出に反対する組織を立ち上げる動きがあることも報告された。「五島列島、自然と文化の会」の江頭圭彦世話人は「五島の自然を愛している

新基地反対に追い風

解説

「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会の構成団体が7団体から12団体に増え、名護市辺野古の埋め立てに反対する動きはさらに広がりをみせる。政府は、全国に広がる新基地反対の声を真摯に受け止めるべきだ。

一方、翁長雄志知事は7日以降、前知事の辺野古埋め立て承認を取り消す考えだが、中谷元・防衛相は承認取り消し後も工事を継続する姿勢だ。総会では本体会事が始まって採石地から土砂が搬出される段階になった場合、沖縄のために何ができるか、との問いも上がった。「採石業者のための法」

し、辺野古は美しい場所だ。どちらの環境も破壊されることは望まない」と強調。「辺野古土砂搬出反対」熊本県連絡協議会の生駒研二事務局長は、日本ジオパークに認定されている地域で採石が行われていると指

摘が上がる採石法改正の請願や、本土の既存空港などに普天間飛行場の機能を受け入れる案を搬出地から出すことも提言された。

摘し、「大事な化石が新基地建設に使われるのは許せない」と怒りをあらわにした。15日は安倍首相宛てに署名を提出し、防衛省と環境省に採取地の外来種、環境影響の調査などについて申し入れる予定だ。

だがスローガンに掲げた「一粒たりとも」を実現させるための具体的な取り組みに関しては議論が煮詰まらなかった。署名集め以外にも、採石業者に土砂搬出に協力しないよう求める動き掛けなど、今後の取り組みが注目される。(金良孝矢)

2015.10.4 琉球新報

さらに署名を！
第三次集約は3月末
とします

第二次提出日は未定ですが、更なる署名の取り組みをお願いします。



「故郷(ふるさと)の土で辺野古に基地をつくらせない！香川連絡会」結成

故郷(ふるさと)の土で辺野古に基地をつくらせない！香川連絡会 五宝光基

■とにかく、とりあえずと…

9月20日の小豆島における土取場の状況を見る会と、それに引き続く向井先生のお話を聞いた帰りのフェリーで、「とにかく、土砂搬出問題をからめて辺野古の問題もやらんといかんなあ」と話し合いが行われ、とりあず「準備会」ということで「Facebook」上に報道等の沖縄・辺野古情報を共有するサイトを立ち上げた。

■10月18日立ち上げました

その後、10月3日、私が長崎での「第二回総会」に参加、10月18日、高松市議の「太田あゆみ事務所」に集まった人たちにその「報告会」を行った後、正式に「故郷(ふるさと)の土で辺野古に基地をつくらせない！香川連絡会」が立ち上がった。

「共同代表」に私と市村康さん。決まった会費はとらず、必要に応じてカンパを集める方式になった。口座は作らず、現金決裁である。

ただ、高松市近郊で「反戦・脱原発」等の運動をやっている人が少なく、また高松では伊方原発再稼働反対に向けて、映画「日本と原発」のリレー上映会および「伊方原発を再稼働させない！高松大行動」に向けての準備が忙しく、なかなか動ける人がいない。それでも出来ることはやろうと少人数で頑張った。「呼びかけ文」をつくり、ブログやメーリングリストも作成した。

■当面の目標は

当面の目標は、10月25日の「戦いやだデモ」で「公然」デビューすること…「知っていますか？小豆島の土が辺野古の埋め立てに使われることを…」と題し、裏面は「呼びかけ文」を掲載したビラを作った。約120枚、デモ参加者があまりにも少なかったため、余ったビラは、デモ解散地点のJR高松駅前や、ハロウィン気分で盛り上がる商店街で

撒いた。



香川県小豆島採石場

採石場地先海岸に設置された搬出用設備。

トンネルの上には、国道が走っている。

トンネルをくぐった先に採石場があり、そこから海岸に持ち出した砕石を海水で洗い、運搬船に積み込む仕掛けになっている。

その後、沖縄情勢は緊迫…翁長知事の「埋め立て取消し」に対し、行政不服審査法を使って、沖縄防衛局が国土交通大臣に処分取り消しを提訴。それが認められて「工事再開」と相成った。もっとも「工事再開」とは言っても、まだまだ準備工事しか出来ず、県や名護市が許可を与えないと、工事着手できない箇所も沢山ある…まだ一粒の土砂も辺野古の海には入れられていない…そこで「沖縄防衛局に抗議しよう」という緊急チラシを200枚、10月31日に商店街で配布した。

今後の活動は、まだみんなで詰めなければならぬところもあるが、定期的なビラまき、小豆島へのフェリー乗り場や、観光地でのビラまき・街宣や、署名活動に取り組んで行こうと思っている。また「小豆島環境と健康を守る会」との連携や共同行動も模索中である。

故郷(ふるさと)の土で辺野古に基地をつくらせない！香川連絡会

ブログ:<http://kagawarenrakukai.ti-da.net/>

フェイスブック(FB):<https://www.facebook.com/groups/750385818422278/?pnref=lhc>

北九州 96 万都市に見合った運動を

これからは、賛同個人・賛同団体の力もかりて

北九州連絡協議会 八記久美子

■参加者に沖縄の思いが

10月には、3日の全国連絡協議会第2回総会から始まり、映画「戦場ぬ止み」の6回上映。10月15日の内閣府への署名提出。そして、11月1日の三上智恵監督講演会と、本当に大変な1ヶ月でした。

映画と監督の講演会を企画したのは、北九州での「土砂搬出反対」の運動を広げるために、沖縄の生の姿・声・心を、多くの市民に知ってもらいたいという思いからでした。共同で取り組んだ北九州革新懇と世話人一同が必至で取り組み、映画は685人・講演会には250人の参加がありました。

感想文には、「沖縄の人々と共に涙し、一緒に拍手し、映画の間一緒に闘った。」「イラクのパルージャで、子ども達を殺している海兵隊員の肩章に「オキナワ」の文字があるという事実…生きていく、たたかう力をいただきました」など、参加者がしっかり沖縄のことを受け止めてくれたことが分かりました。

■配布したチラシは6万8000枚

映画と講演会の取り組みでまいたチラシの総数は、7種類6万8000枚になります。印刷するのも、各団体に届けるのも、本当に大変でし

た。印刷が終わった後も、印刷機の音が聞こえるのです。

チラシの内容も、沖縄の現状を知ってもらいたいと、そのつど両面とも内容を変

■相手は国

6月に北九州連絡協議会が出来てから5ヶ月。いま、世話人会で話しているのは、賛同団体や個人賛同者の力を借りた運動を行うことです。

現在、北九州は、賛同団体が26団体・個人賛同者が101名になりました。でも、北九州市は96万都市で、相手が国だということを考えると、もっともっと、この運動を広げていかなければなりません。

■今後もいろんな計画が

どう広げるかは、今からみんなで考えますが、11月の当面の活動計画は、港湾関係の労働組合の案内で、積み出し場所の見学と、山口県議と山口県のアルゼンチンアリの懇談会に同席させてもらうこと。又来年には大浦湾の写真展、学習会を兼ねた賛同団体・個人の会議、そして、熊本連絡協議会のように、業者に「売却依頼がきたら教えて下さい」の申し入れを計画しています。



講演会終了後、三上智恵監督と、安倍政権に抗議する写真を撮りました。

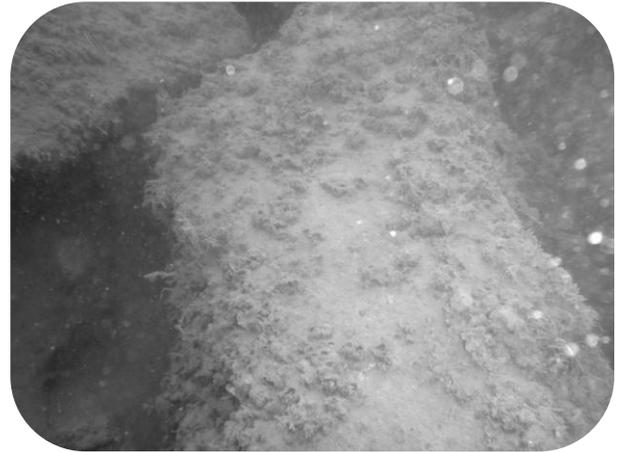
採石場地先海底を

小豆島で潜水調査

採石場では、山の斜面を破砕するたびに細粒が発生します。そして雨が降ると海に流出します。

こともあろうことに、小豆島では搬出時にさらに砕石を海で洗浄しています。

9月19日の採石場先海岸の潜水調査では、海底岩場の斜面に、細粒が堆積していることが確認されました。5月29日、奄美市住用町での潜水調査では、サンゴ礁が壊滅状態であることも確認されています。採石が海の環境を損なっている現実が明らかになってきました。しかし、その実態は、公的には全く調査されていないのです。



白く見えるのが岩場のうえに堆積した採石場からの細粒

奄美の自然を守るワークショップ ～ 砂浜の消滅・サンゴ礁の崩壊 ～

奄美の海の危機

日時・2015年12月19日(土)
13時30分～17時
ところ・名瀬公民館ホール(奄美市) 入場無料

主催・海の生き物を守る会
共催・自然と文化を守る奄美会議
連絡先・城村典文080-1710-1683
前日は砂浜とサンゴ礁の調査を行います。

《プログラム》

砂浜の浸食と消失…現地報告7人
砂浜の変動とその要因…向井宏
採石事業とサンゴ礁への影響…安部真理子
陸域負荷からみたサンゴ礁の多様性保全
…中野義勝
海辺の危機をどうみるか？貴重な甲殻類と場の
保全…藤田喜久
※関係機関への要望書採択もあります

参加団体が13団体に増えました

奄美市住用町市環境対策委員会(栄清安 森紘道) 海の生き物を守る会(向井宏)
沖縄・新基地をつくらせない広島県実行委員会(菊間みどり) 環瀬戸内海会議(阿部悦子 石井亨)
五島列島・自然と文化の会(歌野敬) 自然と文化を守る奄美会議(大津幸夫 蘭博明)
小豆島環境と健康を考える会(富田忠孝) 手広海岸を守る会(代表 碓山勇生)
播磨灘を守る会(青木敬介)
辺野古埋め立て土砂搬出反対北九州連絡協議会(安藤昭雄 松永英樹 南川健一 三輪幸子 森下宏人)
辺野古埋め立て土砂搬出反対熊本県連絡協議会(板井優 福島将美 海秀道 神谷杖治)
故郷の土で辺野古に基地をつくらせない香川県連絡会(市村康 五宝光基)
門司の環境を考える会(森下宏人) ※五十音順 カッコ内は代表、または共同代表

《辺野古土砂搬出反対全国協ニュース No.2》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)
阿部悦子(環瀬戸内海会議)

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県松山市松前町3-2-2 阿部悦子 Tel.090-3783-8332

カンパ等の振込先…郵便振替 01750-8-144158 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

